



# まし埋やちよ

No. 47

千葉県八千代市

埋蔵文化財通信

2023. 5.15

(令和5年)

## 令和4年度を振り返って

本号では、令和4年度の事業内容についてご報告します。

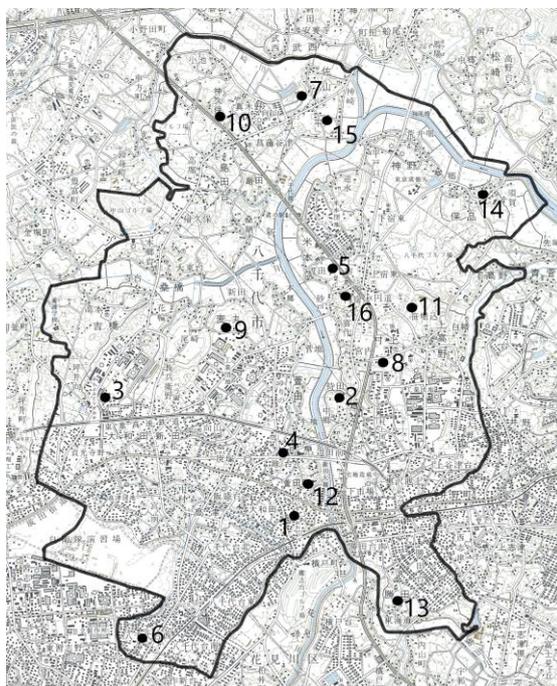
### 発掘調査事業

9遺跡 10地点の確認調査と5遺跡の本調査を行い、民間調査組織による本調査も2遺跡行われました。個々の調査概要は次頁の表や図を参照してください。

### 整理事業

令和3年度に調査した、市内遺跡確認調査16遺跡17地点及び平沢遺跡c地点・f地点殿内遺跡j地点の本整理、令和4年度に調査した勝田大作遺跡g地点、米本城c地点、笹塚塚群と、令和3、4年度に調査した白幡前遺跡i地点の本整理を行い、それぞれ発掘調査報告書を刊行しました。

報告書刊行の令和3年度調査分の市内遺跡では、内野南遺跡k地点、白幡前遺跡i地点、米本辺田台遺跡c地点、佐山貝塚d地点、椿山遺跡a地点、勝田大作遺跡g地点、道地遺跡k地点、米本城跡c地点で竪穴建物跡等の遺構が見つかりました。このうち内野南遺跡k地点については、確認・本調査として縄文時代の土坑1基を調査し、成果を掲載しています。白幡前遺跡i地点については令和3年度・令和4年度の2回に分けて本調査が行



市内遺跡発掘調査報告書掲載遺跡

1 小板橋遺跡 2 持田遺跡 3 内野南遺跡 4 白幡前遺跡 5 米本辺田台遺跡 6 仲西遺跡 7 佐山遺跡 8 西山遺跡 9 新田台遺跡 10 椿山遺跡 11 平沢遺跡 12 上の山遺跡 13 勝田大作遺跡 14 保品南遺跡 15 道地遺跡 16 米本城跡

われ、さらに一部は現状保存されています。平沢遺跡f地点では、北側に隣接するc地点で見つかった竪穴建物跡1棟がf地点まで伸びて居ることからc地点・f地点として令和3年度中に本調査されました。椿山遺跡a地点、勝田大作遺跡g地点、米本城跡c地点は令和4年度に本調査が行われ、勝田大作遺跡g地点及び米本城跡c地点は令和4年度中に

## 令和4度 本調査一覧

遺跡名(地区)	期間	面積(m <sup>2</sup> )	調査概要	備考
椿山遺跡 a 地点 (一部)	4/13~4/21	570	中世土壘 2 条, 溝跡 2 条, ピット 1 基 縄文土器, 中・近世陶磁器(瀬戸・美濃皿, 捏鉢) 土師質土器(皿・播鉢)	民間調査組織
勝田大作遺跡 g 地点	4/21~5/20	264	奈良・平安時代竪穴建物跡 2 棟, 奈良・平安時代土師器・須恵器	
白幡前遺跡 i 地点(第 2 次)	5/27~7/29	296.32	弥生時代竪穴建物跡 1 棟, 奈良・平安時代溝跡 1 条・ピット 2 基, 中近世土坑 2 基, 奈良・平安時代土師器・須恵器	
米本城跡 c 地点	6/13~8/10	865	中世井戸 1 基・ピット 103 基・土壘 1 条・入口 1 基・近世溝 1 条, 古墳時代前期土師器壺・中近世土器・陶器・磁器	
川崎山遺跡 y 地点	7/12~7/22	31	縄文時代陥穴 1 基, 中・近世溝 1 条	民間調査組織
笹塚塚群	10/4~10/31	780	塚 1 基	
椿山遺跡 a 地点	8/1~10/31	1900	中近世土坑 25 基, ピット 124 基, 竪穴状遺構 4 基, 地下式坑 12 基, 火葬墓 2 基, 土坑墓 4 基, 溝 8 条, 中近世土器・陶磁器	

## 令和4度 確認調査一覧

遺跡名(地区)	期間	面積(m <sup>2</sup> )	調査概要	備考
川崎山遺跡 y 地点	4/15~4/22	50/564.43	縄文時代陥穴 1 基	本調査
西山遺跡 e 地点	5/10~5/25	94/1150	縄文土器	
神明前遺跡 c 地点	5/16~5/30	170/1847	奈良・平安時代竪穴建物跡 3 棟, 掘立柱建物跡 2 棟, 土坑 2 基, 井戸状遺構 1 基, 溝 1 条	
平沢遺跡 g 地点	7/5~7/14	248/2900	弥生時代竪穴建物跡 2 棟	現状保存
北裏畑遺跡 j 地点	8/22~9/2	444/4792.89	縄文時代土坑 1 基	確認・本調査
門原遺跡 a 地点	9/20~9/27	168/1655.63	遺構・遺物なし	
東向遺跡 b 地点	9/26~10/3	324/3940	遺構・遺物なし	
門原遺跡 b 地点	11/22~11/25	36/355.97	遺構・遺物なし	
麦丸宮前上遺跡 g 地点	1/26~2/6	300/2998.33	奈良・平安時代土坑 3 基, 近世・近代溝 2 条	現状保存
追分遺跡 b 地点	2/10~2/14	3/29.22	遺構・遺物なし	

## 令和4年度 刊行報告書一覧

書名	主な内容	刊行年月日
島田込の内遺跡 — d・e 地点発掘調査報告書—	旧石器時代石器集中地点 1 ヶ所, 縄文時代竪穴建物跡 1 棟, 炉穴 2 基, 陥穴・土坑 4 基, 奈良・平安時代竪穴建物跡 36 棟, 掘立柱建物跡 17 棟, 土坑 26 基, ピット 46 基, 中・近世溝 4 条	令和 4 年 12 月 12 日
川崎山遺跡 y 地点	縄文時代陥穴 1 基, 縄文土器, 近世以降溝 1 条	令和 5 年 2 月 28 日
米本城跡 c 地点 — 共同住宅建築に伴う発掘調査報告書—	中近世土壘 1 条, 溝 1 条, ピット 103 基, 井戸 1 基, 中国産青磁折縁盤, 白磁端反碗, 常滑窯陶器片口鉢, 甕, 瀬戸・美濃窯陶器平碗, 緑釉小皿, 播鉢, 御目付大皿, カワラケ, 内耳土鍋, 播鉢, 火鉢, 風炉	令和 5 年 3 月 25 日
公共事業関連遺跡発掘調査報告書IX 殿内遺跡 j 地点	古墳時代竪穴建物跡 2 棟, 奈良・平安時代竪穴建物跡 6 棟, ピット 17 基, 掘立柱建物跡 2 棟, 縄文時代石鏃, 古墳時代土師器, 土製品, 奈良・平安時代土師器, 須恵器, 鉄製品鎌, 紡錘車	令和 5 年 3 月 30 日
市内遺跡等発掘調査報告書	令和 3 年度に実施した市内遺跡確認調査 16 遺跡 17 地点 遺跡名は本文参照	令和 5 年 3 月 31 日
平沢遺跡 c 地点・f 地点 — 乳児院建設に伴う発掘調査報告書—	弥生時代竪穴建物跡 1 棟, 縄文土器, 石器, 弥生土器	令和 5 年 3 月 31 日
笹塚塚群 — 宅地造成に伴う発掘調査報告書—	中近世塚 1 基	令和 5 年 3 月 31 日
白幡前遺跡 i 地点 — 宅地造成に伴う発掘調査報告書—	縄文時代陥穴 4 基, 弥生時代竪穴建物跡 1 棟, 奈良・平安時代土坑 7 基, 溝跡 4 条, 中近世土坑 2 基, 溝跡 1 条, 縄文土器, 奈良・平安時代土師器・須恵器	令和 5 年 3 月 31 日
勝田大作遺跡 g 地点 — 宅地造成に伴う発掘調査報告書—	奈良・平安時代竪穴建物跡 2 棟, 土師器, 須恵器, 刀子	令和 5 年 3 月 31 日

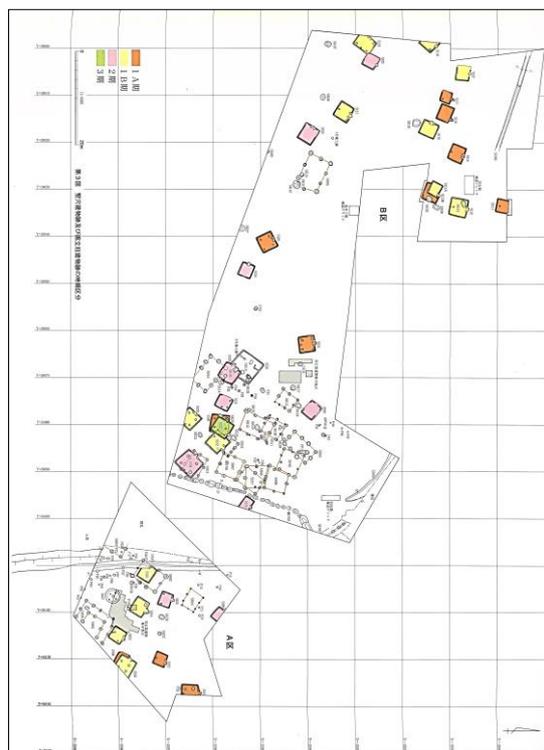
報告書も刊行されています。遺構が検出されなかった小板橋遺跡 l 地点白幡前遺跡 j 地点、仲西遺跡 b 地点、西山遺跡 d 地点、新田台遺跡 b 地点、上の山遺跡 e 地点についても、調査成果を掲載しています。

以下、報告された中から、特筆すべき成果等について触れていきたいと思えます。平成 27 年度・30 年度に確認調査が行われた島田込の内遺跡 d 地点・e 地点では、倉庫建設に先立ち協議範囲 9,700 m<sup>2</sup>の内 5,700 m<sup>2</sup>について、(有)原史文化研究所により、令和 3 年度に本調査が行われました。奈良・平安時代の遺構を中心に旧石器時代の石器が集中して出土した地点や縄文時代の竪穴建物跡、陥穴や炉穴、中近世の溝も見つかっています。今回の調査で中心となった奈良・平安時代の遺構は竪穴建物跡 36 軒や掘立柱建物 17 棟等が見つかり、出土した遺物から 8 世紀後半から 9 世紀前半を主とした集落であることがわかりました。

米本城跡 c 地点は米本城の 4 つの郭の北側、郭外に所在する窪地状の方形の区画にあたります。調査の結果、掘込型屋敷であることが判明しました。

掘込型屋敷とは、その名の通り土塁等で区画された中を掘り込んで周囲より下げ、屋敷を造ります。c 地点で見つかった屋敷も、北東側と南側に開口部を造り、土塁で囲んだ中を表土から 1.1m~2.1m 掘り下げています。

土塁で囲まれた中からは井戸や建物の柱と考えられるピット群が見つかっています。遺物は内耳土鍋や土器播鉢といった日常的に使われていたものが最も多く、次いで瀬戸・美濃窯製の播鉢や小皿が多く見つかっています。他に常滑窯製品や、2 点だけですが貿易陶磁も見つかっています。日常生活に用いる土器類が多い中



島田込の内遺跡遺構配置図

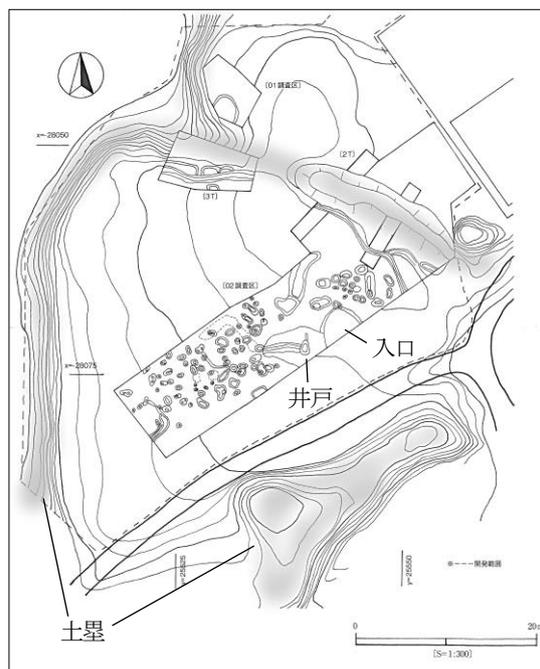


米本城跡測量図

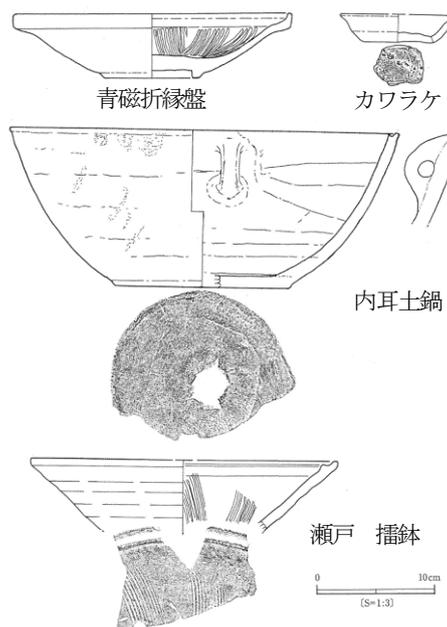
にも、貿易陶磁等の貴重品を所有できる有力者であることから、土豪層の屋敷であったと考えられます。出土した遺物から 15 世紀後半から 16 世紀前半にかけて屋敷として機能していたと考えられ、c 地点の北側で調査された b 地点が、16 世紀後半を主体として、その後の近世も存続しているエリアであるのと対照的な様相を示しています。

米本城跡は文明 11(1479)年に太田道灌が臼井城攻めをする際に、対岸の現在の飯綱神社の場所に米本城攻めのための陣城（飯綱砦跡）を築いたとの伝承が残り、また、村上民部大輔綱清が天文弘治年間(1532～57)米本城主であったとも伝えられていることから、15 世紀末頃までには城郭として成立し、少なくとも 16 世紀後半まで機能していたと考えられます。米本城跡がいつ築城されたのか定かではありませんが、残された伝承や、これまでの調査結果から推測して、米本城に先行して c 地点の掘込型屋敷が造られ、16 世紀の前半に廃絶されます。それと前後して、台地先端に向かって拡張する形で造成工事が行われ、16 世紀後半に本格的な城郭が構築されていったと考えられます。城郭の規模から、支配者は土豪層ではなく、より上位の領主層であると推測することができ、最終的にこの地域へと進出した村上氏を城主とし、土豪層は居住地を移して内宿などの城下集落を形成しながら、大型の城郭へと発展したと考えられます。

**普及・啓発事業** 令和 4 年度は展示会の開催はしませんでした。多くの市民の皆様に出土文化財をご覧いただけるよう、季節ごとの展示資料の変更等、教育委員会庁舎内における展示の充実を行っています。



米本城跡 c 地点遺構配置図



米本城跡 c 地点出土遺物

埋(まい)やちよ No.47  
 —千葉県八千代市埋蔵文化財通信—  
 令和 5 年 5 月 15 日  
 編集・発行 八千代市教育委員会  
 文化・スポーツ課文化財班  
 八千代市大和田 138-2  
 ☎276-0045 ☎47(481)0304



やちよ